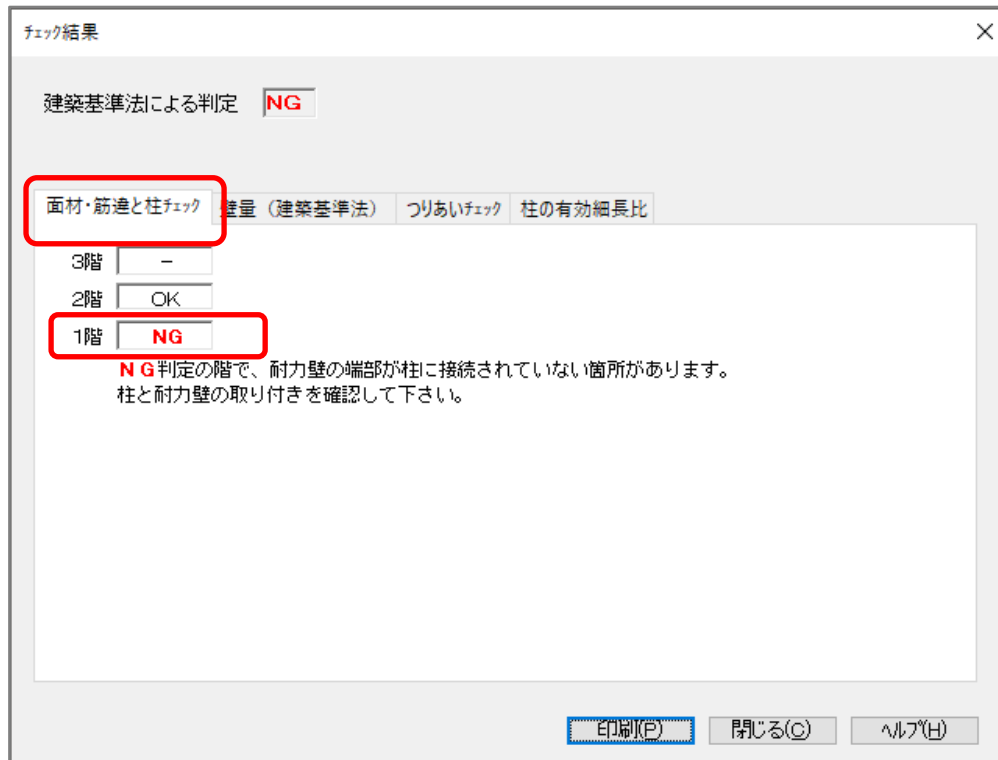


壁量チェックの「面材・筋違と柱チェック」のNG 解消方法

文書管理番号：1085-01

Q. 質問

壁量チェックのチェック結果の「面材・筋違と柱チェック」でNGがある。どのように修正したらよいか。

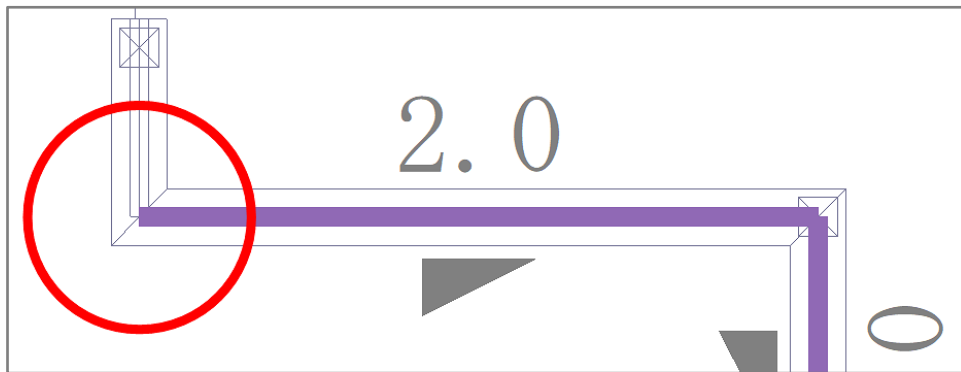




A. 回答

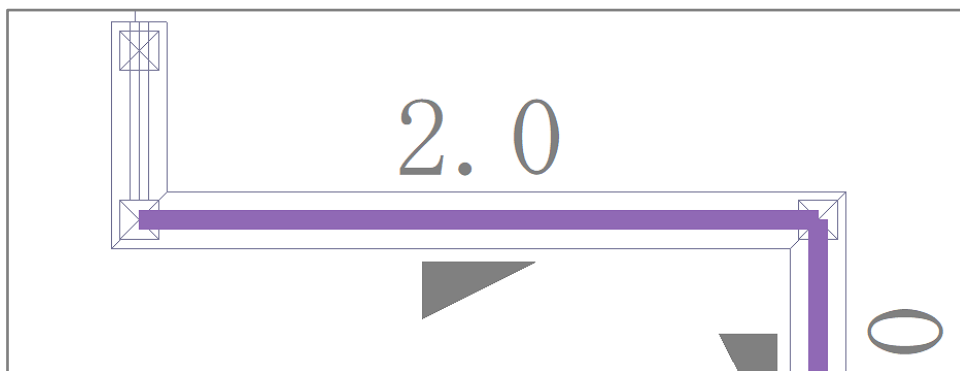
壁量チェックで配置した面材・筋違が、柱芯に接合していない場合に「NG」になります。チェック結果の画面を表示中は、NG 箇所には赤い○が付きます。該当する箇所をプラン図で確認し、修正を行ってください。

状況① 必要な箇所に柱が無い場合

面材・筋違の端部に柱が入っていない。



 (プラン図)で  (柱)を配置




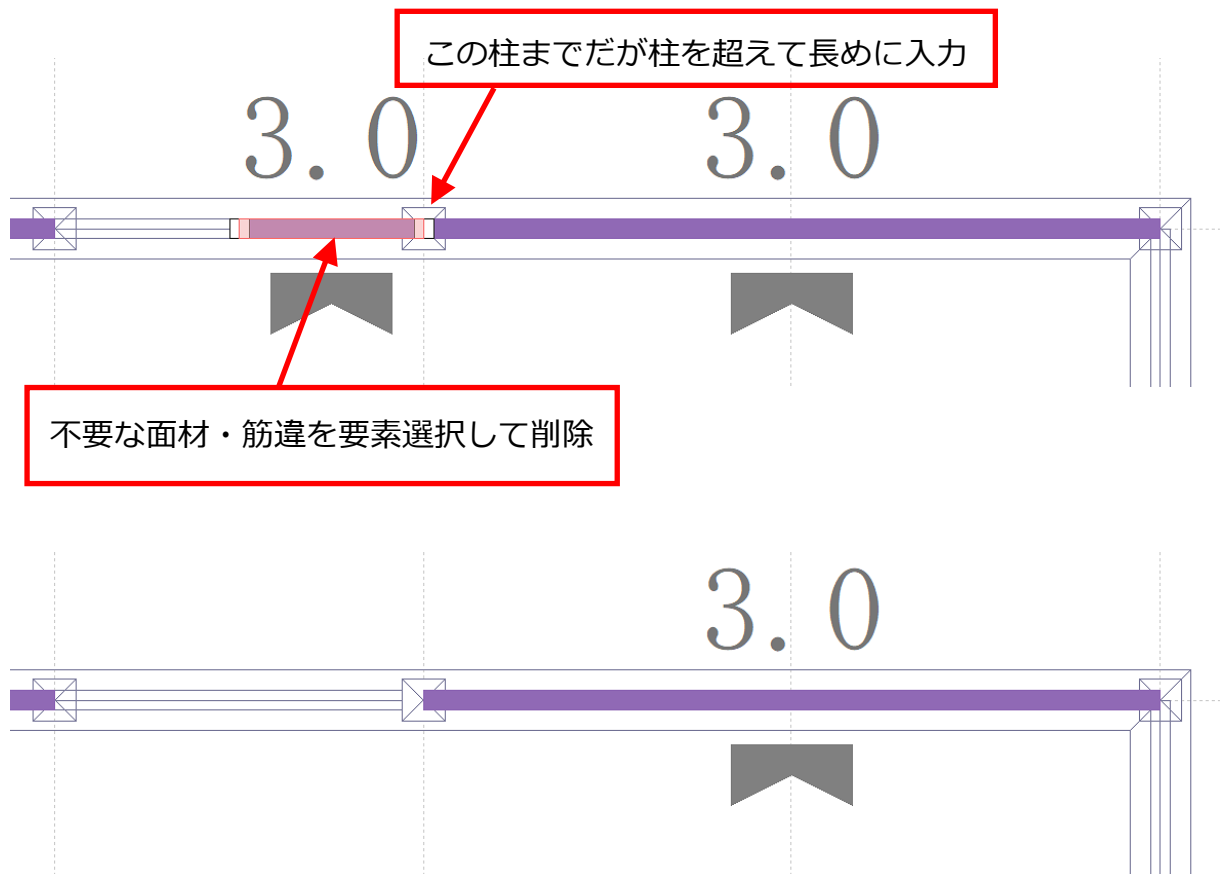
* NGが解消されます。

状況② 面材・筋違の端部が柱に届いていない

面材・筋違の端部が、柱芯まで届いていない。



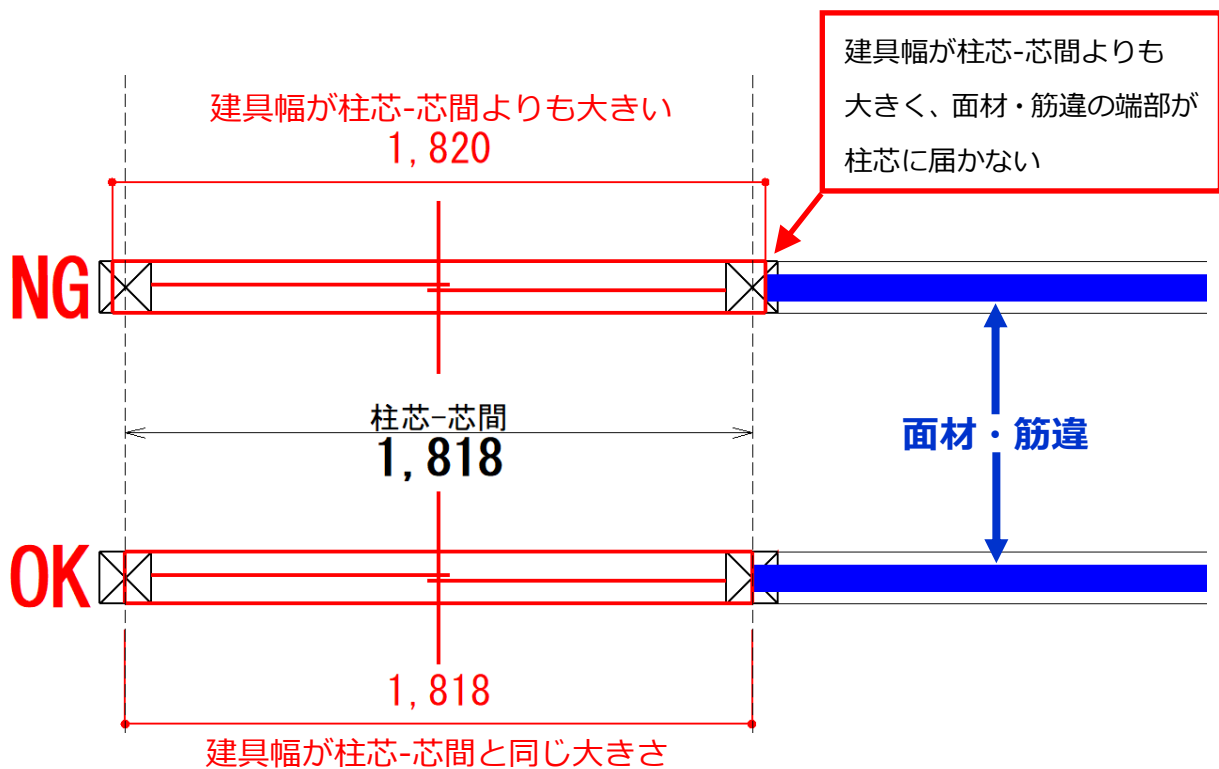
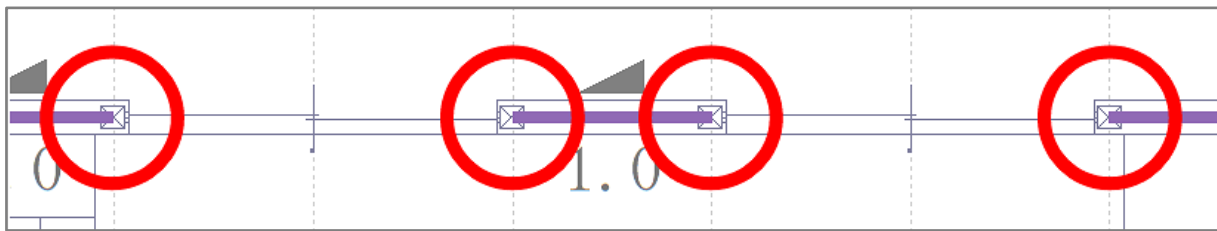
- ①  (耐力壁手動配置)を使用し、面材・筋違を柱芯まで再配置
- ② 面材・筋違を、柱芯の位置に入力し直しても NG になる場合は、柱を横断するように長めに入力後、不要な部分を削除



- * 面材・筋違は柱で2つに区切られます。
- * 面材・筋違が確実に柱芯まで届き、NG が解消されます。

状況③ 柱と面材・筋違が接合しているように見えるが NG になる



柱に接合している建具が、柱芯よりも面材・筋違側に食い込んでいる場合、面材・筋違の端部が建具で止まり、柱芯まで届かず NG になります。



- * 上図のように、グリッド間隔を909にして作図した際に、910モジュールの建具を配置すると、柱芯-芯間よりも建具が大きくなり、当該現象が発生します。
- * 柱間隔と建具幅が同じでも、建具が面材・筋違側にはみ出していると同様の現象が起きます。
- * NG箇所に建具が接合している場合は、建具が面材・筋違側に食い込んでいる可能性があります。

柱芯-芯間で建具を再配置、または建具の端部に柱を再配置し、壁量チェックで当該箇所の耐力壁を入れ直します。

- * 建具定尺寸法の初期値は 910 モジュールで設定していますので、909 モジュールで建具定尺寸法を使用すると、当該現象が発生します。



909 モジュールの寸法を建具定尺寸法に追加して入力、または建具の配置方法を、 (3 点配置)や (固定幅配置)にし、柱芯-芯間で入力してください。

【注意】

準耐力壁（雑壁）については、「面材・筋違と柱チェック」の対象外です。

また、工法が「2×4」の場合、「面材・筋違と柱チェック」はありません。

【参考】 建具定尺寸法

建具の配置が、 (3 点配置(定尺)) や  (中心指定(定尺))では、建具定尺寸法で設定している寸法で建具を入力できます。

- * 910 モジュール以外で入力する場合は、使用するモジュールの建具寸法を追加編集しておく便利です。
- * 設定を変更する場合は、
「設定」⇒「建具設定」⇒「建具定尺寸法」
から建具ごとに設定を変更します。
- * 建具定尺寸法の詳しい操作方法については、A's（エース）のヘルプをご確認ください。

